編集後記

今年もいよいよ師走となりました。忘年会やクリスマス、そして年末年始へとつながるこの時期ならではの高揚感は子供の頃からとても楽しみでした。まだ本土復帰前の時期、高度経済成長の時期には年末の高揚感は今にも増して凄かった思い出があります。年末商戦は目の回るほど忙しく、クリスマスイブの夜はバタークリームのでかいクリスマスケーキを親父が買ってきました。最近ではあまりその頃のような盛り上がりが足りないような気がしています。今年はちょっと無理してでも盛り上がってみようかと考えています。会員の皆様はどの様な師走のプランをお考えでしょうか？医療を取り巻く様々な問題を考えると脳天気に騒ぐ気にもならないというお声も聞こえる気もいたしますが、空騒ぎでも良いからこの師走の時期を楽しんでみるのも一興かと思います。

2009年は会員の皆様にとってどの様な年だったでしょうか？政権交代という大きな変化が起きましたが、これによって5分ルールの見直しや、介護保険制度、高齢者医療制度、レセプトオンライン請求の義務化見直しなど、これまで頑として動かなかった大きな岩がゆっくりと動いていく様な気も致します。しかしその様な中でも相変わらずマスコミを賑わすのが勤務医と開業医との対立を扇動するかのごとき報道の数々。対立の構図を演出することによって内部の対立を煽り、医師同士の連帯を突き崩すのが狙いなのでしょうか？今回の会報でも女性医師の問題や勤務医の問題など非常にデリケートな問題にも沖縄県医師会は取り組もうとしています。北部の産婦人科医師不足や外科医不足を問題視した随筆もとても興味深く読ませて頂きました。新型インフルエンザの夏の第一波を乗り切ったのは勤務医、開業医、行政など様々な垣根を越えた医師の協力と連携でありました。充分な情報の得られていない未知の感染症であった新型インフルエンザにワクチンも無く、自分の診療が犠牲になるかも知れない、いや場合によっては自分の命さえ危ういかも知れないという状況にありながら、発熱外来に立ち向かった医師達は強い使命感で現場に居たはず。これに関してはマスコミとの懇談会報告の中に詳しくご報告させて頂きました。

医師として生きていくのは様々な決断の連続です。女性医師、離島医師など立場は違っても、キャリアアップをどうするか、生き甲斐をどう見つけていくか、父として母としてどう生きていくべきかは非常に重い決断の連続です。医師としての連帯感を持ち続け、お互いの問題に対する想像力を働かせて自分の出来る事を一歩ずつやっていく事が大切だと思います。『先生！』と同僚の医師達を呼ぶときには、『先生も大変だと思うけど、一緒に頑張ろうね！』というニュアンスが含まれているように思います。お互いを尊重するからこそ『先生！』という言葉がお互いに出てくるのでしょう。

今年も沖縄県医師会報をご愛読頂きましてありがとうございました。

広報委員　玉井 修